

令和 7 年度 第 2 回学校運営協議会記録

1. 日時・場所

令和 7 年 10 月 27 日（月）13：20 ～ 14：40

大阪府立八尾高等学校 校長室

2. 出席者

大阪教育大学教授 廣木 義久

八尾市内学習塾代表 児玉 隆

八尾市立成法中学校校長 小山 健治

八尾市立八尾小学校校長 浅野 貴至

本校 P T A 会長 吉本 桃

本校同窓会副会長 松村 康隆

本校

中島彩子(校長) 中村泰造(教頭) 百軒由香子(事務長) 水野道尚(首席) 久世逸平(首席)

庄司佳保里(教務主任) 久米祥子(進路指導主事)

3. 「令和 10 年度以降の大阪府公立高等学校入学者選抜制度」について

校長から説明。

- 府立高校が 15 年後に 32 校程度減少するという見通しの中、選ばれる学校になるためには、強い危機感を持って取り組む必要がある。
- アドミッションポリシーをそのまま維持するとしても、選ばれる学校になるためには、特に「特色枠」において、具体的な生徒像や独自性を追求し、「さすが八尾校」といえるようなものを 3 年後くらいには示せるようにすべきである。

4. 「令和 5 年度策定のスクールポリシー点検結果」について

校長から説明。

- スクールミッションに含まれる「質実剛健」という言葉は、中学生が見ても抽象的で内容が分かりにくい可能性がある。
- アドミッションポリシーに、例えば「笑顔溢れる生徒」といった、学校の楽しさや柔らかい部分が伝わるような文言を追記することで、「質実剛健」の持つ厳しいイメージを打ち消し、中学生の興味を引くことができるのではないかという提案があった。

5. 「令和 10 年度以降の公立高等学校入学者選抜に係る学校特色枠の作成結果」について

校長から説明。

- 学校の人的配置や運営への影響等を考慮し、複雑な選抜方法（面接、実技、プレゼンなど）を導入するよりも、より学力重視の形で検討を進めることとなった。
- 特色枠で入学した生徒も通常クラスに混ざるため、特色が生かされにくい。特色枠導入と同時に、学校の体制もそれに合わせて変える必要があるという意見が出された。

6. 「令和 8 年度入学生（81 期生）教育課程」について

教務主任から説明。 特に意見なし。

7. 「後期学校行事予定」について

教務主任から説明。 特に意見なし。

8. 「令和 8 年度使用教科書採択」について

教務主任から説明。 特に意見なし。

9. 「前期授業アンケート結果」について

校長から説明。

- 先生方はアンケート結果を項目別に分析し、授業改善に活用している。授業方法の変更によって評価が変化することもあり、その結果を踏まえて改善を重ねている。
- アンケート結果には、生徒が叱られた直後など感情的な要因で評価が低くなる場合もあり、結果は慎重に扱う必要がある。また、「授業はわかりやすいか」といった質問では、自分にとってわかりにくければ否定的な回答をする傾向があるため、質問の仕方にも工夫が求められる。

10. 「78 期生の大学入学共通テスト出願」について

進路指導主事から説明。 特に意見なし。

11. その他

- 学校説明会においては、スライドを使いながら「楽しく話してくれる」先生のほうが、生徒が前向きに興味を示す傾向がある。
- 生徒や保護者に対して、写真や映像、先輩の声（高校生の声）といった視覚的なツールで伝えることで、より分かりやすく、学校が「楽しい」というイメージを持ってもらえる。